

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報 No.17

発行 〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL 03-3732-4481

東京実業高校同窓会会報部
http://www.tojitsu-dosokai.com

第34期 会長 本田 位公子



もうすっかり定着した「同窓会有志懇親会旅行」はいつも理事長先生・校長先生に参加して頂き、バス一台をチャーターし、毎年9月の第一土・日曜日を利用して実施され、とても楽しい語らいの場となっております。

しかし、今回はリクエストもあって2泊3日の九州旅行を計画しました。当初は参加者が集まるかどうかと関係者一同弱気になっていましたが、締め切りまでには20名となり、にぎやかに楽しく旅行が遂行出来ました。これは偏に旅行担当幹事の方々の努力の賜物と感謝する次第です。

東実精神が何かにつけ表に現れ、人から人へと伝わって大きな輪となっていることをとても嬉しく思い、勇気づけられています。これは将に私学ならではの良さであろうと実感しております。

今の学生にはITという社会環境に呑まれることなく、東実精神の“心豊かな、人を思い自分を大切にすること”を大義として、未来ある人生設計を身につけて頂きたいと願う次第です。

同窓会は同窓生が「楽しく語らい集う会」ですので、出来る限り多数の方々の参加を願っております。

同窓会の益々のご発展を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。



平成17年度 東京実業高校 同窓会定期総会 2005.6.11 “プラザ・アペア”



細やかなボランティア



理事長 上野 雅子

去年の四月より、ひよんなことから食堂の片隅でカップケーキを売り始めた。そもそもの発端は、校長が「まごめ園」という知的障害者支援団体の施設長さんから、学校で販売をしてみてくれないかとの話があり、その方が元公立中学の校長先生だったこともあって「それではやってみましょう」ということになった。当初は、インターアクトか生徒会の生徒達に販売してもらおうか、と考えていたが、お昼休みというのは結構忙しいらしく、とても無理ということなので「校長と私がやってみましょう」と、校長共々売ることになった次第である。ケーキは二種類で、チョコケーキとレーズンケーキ。1つ百円のところを80円で売り、20円は学校負担としている。

日頃は、生徒達との接触の無い立場なので、お昼休みに食堂へやって来る生徒達の様子を見るのも今では楽しみの一つとなっている。元気よく挨拶する子、一人静かにジュースを買う子、仲間達とやって来て楽しそうにふざける子など様々で、若い彼らの姿を見ているだけで元気がもらえ、若返る気がしてくる。ケーキの方は何十個も売れるわけではないが、二学期半ば過ぎともなると顔見知りも出来て、お得意さんは一人で数個も買ってくれたり、わずか45分間の短い間でも会話をかわすことの

楽しさを味わっている。

「まごめ園」の利用者は37名程で、9時から15時までの間にパウンドケーキやカップケーキ等の焼き菓子製造、編み紐やビーズで作ったアクセサリー等の手工芸製造、電気部品組立て等、自立した生活が出来るように14、5名のスタッフの方々が支援している。

生徒達にはパンフレットをあげたり、口で説明したりして理解を深めてもらうよう心掛けているが、「先生が作ったの?」とか「まごめ園って何?」などという質問も出たりで、初めの頃は何故校長たちがケーキを売っているのか分からない様子で、それがまた面白い会話に繋がり、楽しさを倍増させる原因ともなっていた。

ボランティアなどというには、あまりにも細やかでおこがましいが、少しでも生徒達が理解をしてくれて弱者への優しさを持ってくれたら幸いと、これからも校長共々ケーキ販売を続けて、製造者の人達の助けとなればうれしいナと思っている。

皆様も学校へお越しの節には、食堂までいらして私共にお声をかけて下さい。ただし、お昼休みだけですの時間を間違いないく!



平成17年度 東京実業高校 同窓会定期総会 2005.6.11 “プラザ・アヘア”

東京実業高校の 現況と私の心



学校長 上野 毅

同窓会の皆様には、常日頃、本校にご声援をいただき感謝申し上げます。

現在の全校生徒数は、1250名です。定員1485名ですので235名程下まわっております。

募集にはできる限りの努力をしたのですが、このような次第でした。10年程前、2000人強在校生がいたことを思えば、隔世の感がします。もっとも、その頃、東京都内の中学三年生の人数は、10万人弱でしたが、現在は25%減少して7万3000人位ですから、本校へ入学する生徒数も少なくなるのは、当然といえば当然であります。

また、10年位前から、私立中学を併設する高校が急増加しました。したがって、少子化と私立中学の増加というダブルパンチに見まわれ、私立高校への入学志望者は激減しているということが現況であります。

皆様もよくご承知のことと思いますが本校は4つの科・コースを持って運営しています。最近の入学生の大きな特徴は、工学系（機械科・電気科）へ入学する生徒が減少していることです。

少子化で進学出来るであろう高校はたくさん存在します。

つまり、普通科へ進学できるならば、わざわざ3Kといわれる工学系には行きたくないという生徒が増えている、と考えるのが妥当であろうと思っています。

国の指導者は「産業国家としての日本の基本路線は変わらない。「ものづくり」は日本の国是である。」と、言っています。しかし、彼らは予算の内、産業振興予算を年々減少させて来ています。また、実業高校、工業高校の補助金も急減させて来ています。そういう中ですが、本校は私立の工業をなくすことは、「国の存亡にかかわる」との意気込みで、運営して行こうと思っています。

以上、多少愚痴っぽいことを書きましたが、このようなことが常日頃、頭から離れないということは、私自身の身体を悪くする源になると思いました。

そこで、同窓会顧問の村松濱代氏のウォーキング日本縦断のことを思いうかべ、歩くことでリフレッシュせようと、昨年（2005年）10月の初旬、村松さんよりスケールはぐっと小さいですが、紀伊半島縦断、熊野古道を歩いて来ました。熊野古道は、平安時代の病氣厄払いが、発端と聞いておりました。3本の古道があり、その内、一番楽しそうな初心者向けを、紀伊白浜から入り、完歩しました。

森林浴を楽しみながら、昔の人と同じ道を歩いているのだという実感がもてたトレッキングでした。

これで少しは厄払い出来たかも。



—熊野古道にて— (2005.10.9)

●お菓子のご用命はアルベリに●

和洋菓子、クッキー、焼菓子、ギフトetc
まごころこめてお届けします。

株式会社 アルベリ

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町7番14号
TEL : 045-581-5441
FAX : 045-573-6116

<http://www.alberi.co.jp>

第23期 山本 徳太郎

オーダーメイド専門

企画から製品まで(多少なりとも製作いたします)

ファイル・バインダー・表示板・掲示板・黒板・ディスプレイ
紙・ビニール・プラスチック・金属・ゴム・繊維・木製品 その他

米軍、銀行、航空、船舶、外国商社等納入

企画・製作
株式会社 伊藤商店 TEL (03) 3241-1496
FAX (03) 3241-1439

東京都中央区日本橋本石町4-2-2 〒103-0021

第18期 伊藤 勝啓

学校近況報告



副校長 青木 英二

■年々増える進学者

昨年三月の卒業式で、男子444名、女子94名の計538名が卒業しました。その進路は大学・短大が29%、専門学校41%で、70%が進学しました。就職は22%で、進学者が増え、就職者が減少するという傾向が毎年続いており、今後もこの傾向が続くことが予測されます。進学者が増える要因は、全体の高学歴化がありますが、高校での就職が大変厳しい現状であることも反映しています。

今年度の入学者は、男子367名、女子86名でした。少子化で昨年度より中学卒業生が減少していますので、定員より若干下回る入学者となりました。

この入学者に対して、系統的な進路指導を行い、しっかりした職業意識を育てながら、多様な進路に対応できる指導をしています。

■米国より交換学生が来日

昨年6月18日に米国コロラド州ボルダー地区から男子5人、女子3人の高校生と引率のマーク・シュミット先生が来日しました。滞日中は、本校生徒・保護者との交流、地域の中学生・小学生との交流や富士登山、京都・奈良見学、その他の地の見学と交流を深めました。

7月30日までの43日間、日本の文化や生活に触れ、異文化を体験したことは、来日した高校生たちの今後の人生に大きな意義があると思います。先生と生徒は感慨深げに帰国の途につきました。

■各クラブの活躍

*陸上部の活躍

昨年10月に行われた、東京都高校新人陸上競技会では、トラックの部で2位、総合で3位に入賞しました。その結果5人が関東大会に出場し、1人が5千メートル走で4位に入賞しました。

11月3日に全国高校駅伝東京都予選で、本校のチームは第2位になり、残念ながら全国大会には出場できませんでしたが、出場99校中第2位の立派な成績で、その後の関東大会に出場しました。

また、今村光明君が、1月22日に広島で行われる「全国都道府県対抗駅伝」の高校生区間の東京代表として出場しました。

*ブラスバンド部

昨年12月に行われた、マーチングバンド全国大会に、本校ブラスバンド部は連続21回目の出場を果たしました。

毎年出場チームの力量が高くなる中で、本校は今年も中編成の部で金賞を受賞しました。

*レスリング部

部員の減少で休部寸前であったレスリング部は、地道な活動が実を結び、まだ少数ですが部員も増え、東京都新人戦で団体三位に入賞しました。それにより3名の部員が関東選抜大会に出場しました。

■教職員の異動

*新任教職員

数学科 金子 知美先生

*退職教職員

数学科 岡崎 有理先生

事務 谷口 美智子さん

●● 楽しい室内空間作りのお手伝い ●●

インテリア 遠藤商店

〒146-0085
東京都大田区久が原3-34-12
TEL(03)3752-3027 FAX(03)3752-3359

第22期 遠藤 孝一

東京実業高等学校ホームページもご覧下さい!
(同窓会のホームページもリンクされています)

<http://www.tojitsu.ed.jp/>

機械科の現況



科長 金子 健一

80余年の歴史をもつ機械科では、入学した生徒に対して機械全般の基礎からIT時代にふさわしい先端技術の習得による「ものづくり」を学んでいます。特に今年度はデジタルデザイン加工実習として、彫刻レーザー加工機、3次元モデリング加工機とそれらに必要な3次元CAD・CAMソフト及びレーザー加工ソフトを導入したことにより、今まで以上に機械科の実習内容が高度な専門性をもってきました。今年の東実祭の機械科展では、生徒の作品の展示や実習内容の発表の他にネームプレート(昨年まではマシニングセンタで加工)を彫刻レーザー加工機で製作して、機械科展の見学者にプレゼントしました。見学者の多くの方がレーザー加工機を見るのがはじめてということもあって、短時間にレーザーがプレートを加工する様子をくいいるように見て「すばらしい機械だ!」、「子ども達がこのような機械の技術を習っているのかと感心させられました」というような声がありました。なお、東実祭における機械科の校内成績結果は、M1B(アーチ製作)、M1C(機械科展)、M2C(クレイアート)が、それぞれすばらしい内容として評価され、入賞したことをご報告致します。



「さあ、これからどう分解しようか?」



「分解した部品をカットしているところ」



「完成!」

楽しい日本語を大切に

株式会社 佐々木印刷所

〒146-0095 東京都大田区多摩川1-18-15
TEL(03)3758-0710

第56期 佐々木 健

めっき材料総合商社

株式会社 三松

本社 東京都大田区西蒲田7-57-11
〒144-0051 TEL(03)3733-7131(代)
営業所 藤沢市辻堂西海岸2-14-45
〒251-0047 TEL(0466)34-1711(代)

第17期 村松 演代

スポーツのことなら!

しろかね

白銀スポーツ

ユニホーム・スポーツ用具
用品・施設・工事一般
カップ・賞品・トロフィー

〒143-0024 東京都大田区中央8-29-7
TEL(03)3754-8679 FAX(03)3754-4845

第37期 白銀 正明

電気科だより



科長 小椋 幸江

平成17年度も電気科は一クラス（35名）でスタートしました。募集人数は95名（二クラス）ですが、「少子化」や「工業離れ」などの様々な要因により、電気科二クラス体制が維持出来ない状況です（本年度で電気科は3学年とも一クラス）。しかし、電気科では今こそ少人数編成での技術者教育が可能であると考え、綿密な指導を教員全員が全力で実践し、特に工業技術者育成のために不可欠な電気実習に力を入れています。電気は強電と弱電に大別することが出来ますが、現在では弱電分野の技術進歩が著しく、実習でもこの流れに沿うべく、基礎である電子工学実習、自立型ロボットを使用したコンピュータ制御やコンピュータリテラシー、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの基礎を学ぶワンボードマイコンなどを教育課程に取り入れています。

例年、同窓会報でご報告させて頂いている、「第二種電気工事士国家試験」の合格者ですが、平成17年度は電

気科の生徒のみ二年生9名・三年生6名の15名が技能試験を受験し、14名合格、技能試験の合格率93%という過去にない合格率となりました。また、上級資格でもある「第一種電気工事士」の筆記試験・技能試験に日々の努力が実り、二年生が一人合格しました。

最後に、平成17年度進路状況ですが（10月28日現在）、就職希望者は11名でほぼ全員が内定をいただいております。

専門学校進学予定者は18名、大学進学予定者は5名となっております。

電気科は平成18年度より共学となります。厳しい状況ではありますが、共学という新しい教育環境を向かえるにあたり、一人一人の個性を尊重し、優れた技術者を育成すべく、さらに努力する所存でございます。

同窓会の皆様、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

「普通科文理コース」



科長 関根 章道

昨春文理コースでは、89名の卒業生を送り出しました。

おかげ様で、50名の大学・短大への現役合格者を出し、進学希望者の78%に達することができました。中でも、文理コース初の首都大学東京（旧都立大学）、川崎市立看護短期大学と公立大学へも2名合格いたしました。

週5日制となり、授業時間も減少する中で、できる範囲での可能性を追求しつつ進学指導にあたっています。

さて、平成17年度の文理コース入学者は、男子79名、女子20名、計99名、3クラス編成でスタートしました。

（担任：須貝、宮地、山田各先生）新しい試みとして、毎週月曜日に“到達確認テスト”を実施しています。これは、前週に学習した国数英3教科の内容からテストをし、基準に達していない生徒については放課後に補習を行い、

早い段階で学力を補っていく、また、補習することに取り組んでもらおうというものです。

生徒へのアンケートでは、約半数の生徒が週末に補習しているようで、徐々に効果が現れていると思っています。

そんな中、1年生では61名の生徒がクラブにも入部し、勉学との両立に励んでいます。

今後は、各季講習会の再編と内容の充実に努め、さらなる成果を求めていきたいと考えています。

同窓会の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。

「普通科ビジネスコース」



科長 原田 忠彦

9月1日現在の普通科ビジネスコースの生徒数は、1学年197名、2学年210名、3学年153名で合計560名という本校の中で、最も大きなコースとなっています。

男女比率も375対185と、ほぼ2対1の割合です。

ようやく共学化から、また、商業科から普通科ビジネスコースになって4年が経ちました。私自身、本校商業科を昭和46年に卒業しましたが、当時の別学の状況とは大きく違い、考えていたよりも生徒自身が明るくのびのびとしているように感じます。

現在、専任8名と講師7名が簿記検定・情報処理検定と様々な検定試験において、一人でも多くの合格者を出すために補習に取り組んでいます。

進路においては就職希望者が少なくなり、専門学校進学者が大半を占め、次いで大学進学希望者の割合となっています。

これからも生徒・教職員一体となって、さらに前進していこうと思います。

頂上を目指す



陸上競技部監督 小川 欽也

平成15年11月3日、立川市の昭和記念公園で悲願の東京都高校駅伝大会初優勝！そして、師走の京都を東実大応援団の追風を背に駆け抜けた。結果は何位でも、何分でも構わない。楽しかったなあ。嬉しかったなあ。

翌年は、2連覇をねらっていたものの8位。そして、17年度は、早稲田実業高校に完敗の準優勝。師走の都大路の舞台を再び駆け抜けることができませんでした。

平成8年4月から東京実業高等学校に奉職させていただき、丁度10年を終えようとしています。

この間、多くの方々に支えていただきながら、ここまでやってくることが出来ました。最初の頃は、指導の難しさ、奥深さに悩みながら（現在も変わらぬ状況ですが）どうすれば強くなれるのか、どうすれば勝てるチームを作れるのか、毎日毎日繰り返し考えていました。

ある日、私の高校の恩師から「生徒が一人でもグラウンドに居るだけでも幸せと思え！そして、速く走ることを教えるのではなく、高校生として当たり前のことを当たり前に行えるように教

えなさい！」と言われました。これは、私自身が高校時代に陸上競技を通じて教えられてきたことでした。大事なことを忘れていたのです。年々、指導が難しくなってきましたが、「教え、育てる」ということに時代の変化というものはないと感じています。今後も、同窓会はじめ皆様方のご支援を賜れば幸いに存じます。



全国高校駅伝 アンカーの選手

同窓会近況報告

平成16年度 収支決算報告書

自 平成16年4月1日
至 平成17年3月31日



| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 科目 | 16年度予算 | 16年度決算 | 科目 | 16年度予算 | 16年度決算 |
| 前年度繰越金(普通) | 7,022,014 | 7,022,014 | 事務消耗品費 | 700,000 | 511,576 |
| 入会金 | 5,000,000 | 5,380,000 | 通信連絡費 | 400,000 | 425,118 |
| 寄付金 | 100,000 | 230,000 | 印刷費 | 100,000 | 29,925 |
| 広告費 | 60,000 | 50,000 | 会議費 | 600,000 | 509,934 |
| 東実祭 | 200,000 | 197,650 | 総会費 | 400,000 | 299,862 |
| 受取利息 | 200 | 76 | 旅行費 | 200,000 | 271,810 |
| 雑収入 | 50,000 | 45,000 | 新年会費 | 200,000 | 120,340 |
| | | | 東実祭 | 200,000 | 195,500 |
| | | | 会報発行費 | 600,000 | 311,440 |
| | | | 慶弔費 | 500,000 | 345,750 |
| | | | 卒業記念品費 | 450,000 | 412,680 |
| | | | 助成費 | 500,000 | 18,000 |
| | | | 積立金 | 3,000,000 | 6,000,000 |
| | | | 交通費 | 50,000 | 9,620 |
| | | | 予備費 | 300,000 | 0 |
| | | | 次年度繰越金(普通) | 4,232,214 | 3,463,185 |
| 合計 | 12,432,214 | 12,924,740 | 合計 | 12,432,214 | 12,924,740 |

積立金等次年度繰越金内訳 (別途会計)

| 金融機関名 | 前年度残高 | 増減 | 利息 | 本年度残高 | 備考 |
|------------|------------|-----------|-------|------------|-----|
| 定期預金(みずほ) | 2,041,233 | 6,000,000 | 493 | 8,041,726 | 助成金 |
| 定期預金(東京三菱) | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 積立金 |
| 債券(中国ファンド) | 2,219,225 | 0 | 141 | 2,219,366 | 積立金 |
| 債券(MMF) | 10,922,510 | 0 | 2,555 | 10,925,065 | 積立金 |
| 合計 | 25,182,968 | 6,000,000 | 3,189 | 31,186,157 | |

平成16年年度の収支報告書を監査致しました。
その結果適正且つ妥当であることを認めます。

平成17年5月23日

会計監査 笠原 忠雄 
小島 浩 

平成17年度 事業計画書

【事業部】

- 事業…(実施済)
 - ・新年会の企画・運営・管理
日時：平成18年1月28日(土曜日)
会場：川崎日航ホテル 会費：8,000円
- 旅行…(第23回目実施済)
 - ・旅行会の企画・運営・管理
日時：平成17年9月3日(土)～5日(月)
行先：九州方面(雲仙温泉・ハウステンボス)
会費：70,000円 参加者：20名
- 東実祭…(実施済)
 - ・同窓会の部屋設営・管理
日時：平成17年11月5日(土)・6日(日)
同窓会室に、各卒業年度のアルバムの
展示、「どら焼き」の販売など。

【会計部】

- 年度会計管理

【既に実施・開催された事業については、
その内容を報告に代えさせて、いただきます】

【総務部】

- 総会…(開催済)
 - ・総会の企画・運営・管理(開催済)
日時：平成17年6月11日(土)15時～
場所：プラザ・アペア(蒲田)
懇親会…会費：3,000円
(総会后、同会場で開催)
- 庶務
 - ・同窓会に関する庶務全般
 - ・会員名簿管理
 - ・各期の幹事の方へ同窓会参加への推進

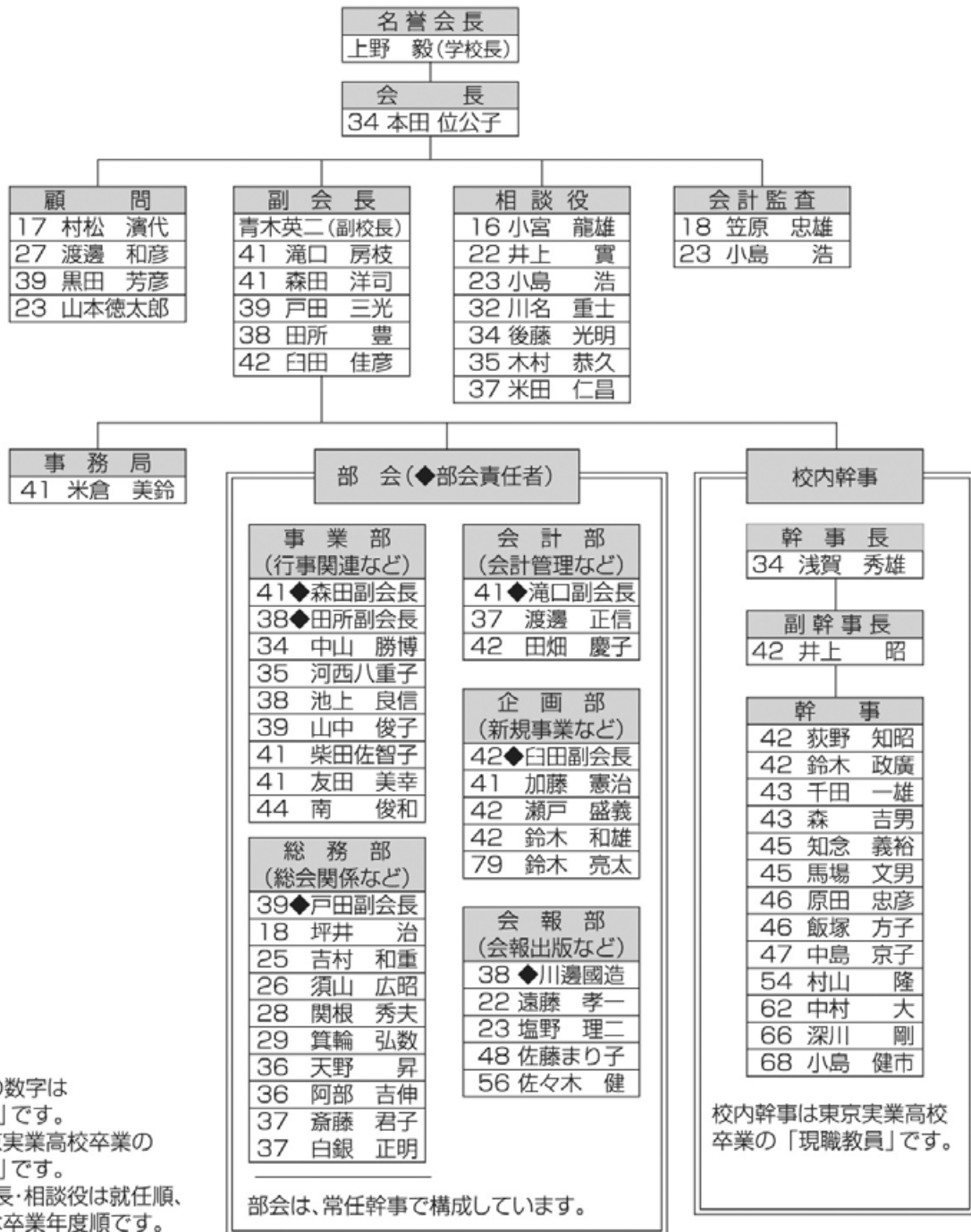
【企画部】

- 新規事業及びホームページ管理等の企画運営
- 会則に関する事項等

【会報部】

- 会報編集出版(17号発行)

平成17年度 同窓会組織



- ★氏名の前の数字は「卒業年度」です。
- ★幹事は東京実業高校卒業の「現職教員」です。
- ★顧問・副会長・相談役は就任順、他の役員は卒業年度順です。

定期総会

平成17年度定期総会が6月11日(土)午後3時から、蒲田南口「プラザ・アベア」において開催されました。28期関根秀雄氏の司会のもと、本田位公子会長・上野毅学校長のご挨拶の後、本田位公子会長が議長に選出され、平成16年度の事業報告並びに収支報告、平成17年度事業計画並びに予算案等、報告事項および議決となる事項が審議可決されました。今年度は、常任幹事の方は皆留任。新しい常任幹事に44期の南俊和氏が任命されました。続いて第二部の懇親会に移り、司会の34期中山勝博氏のもと、1年ぶりの再会に話が弾む人…。クラス会を行っている期…。など、時間が過ぎるのも忘れ2時間が短く感じました。出席者は、ホームページで本開催を知り参加された方(2名)もおられ、16期～80期の同窓生(55名)、校内幹事の先生(8名)、総勢65名の方が出席くださいました。(U、K)

渋谷 宇田川で
東京実業高等学校マーチングバンド
渋谷センター街・井の頭通りでパレード演奏
—井の頭通り道路整備完成記念に参加致しました—



第42期 瀬戸 盛義

毎日、若者で賑わう渋谷センター街で、平成17年4月22日に開催された「井ノ頭通り道路整備完成記念の渡り初め」のお祝いに、東実マーチングバンド部によるパレード演奏を披露しました。

主催者・渋谷センター商店街振興組合（理事長高木總輔氏・万葉会館会長）はじめ、来賓には、相撲協会の高見山親方や桑原渋谷区長・渋谷警察署長・渋谷消防署長・村上都議の各氏がお祝いに駆けつけ、盛大なお祝いとなり、本校マーチングバンドのパレード演奏には地元の方や来賓の方々より、感心や感激のお言葉をいただきました。

また、パレードを見た公園通り商店街の方からは、公園通りの何かのイベントの折に、是非パレードの参加をお願いしたいとお話もありました。私も、母校の皆様の日頃の訓練と、ご努力のほどに目頭が熱くなって、とても嬉しい一日でした。

快くバンドの出演を快諾して下さった上野校長初め、顧問の横田先生、バンド部の皆様に感謝申し上げます。

なお、井ノ頭通りは国土交通省の道路整備行政のモデルとして、渋谷区や東京都の協力のもと、整備事業が始まったもので、整備後は車の停滞が解消され、歩行者が歩きやすくなったという評判があり、商店も売上が向上したと喜ばれております。



渋谷センター街で！（プラスバンド部）

初参加の
九州旅行



第33期 代田 喬郎

今回初めて、参加させていただきました。空港での待ち合わせまでは心配ばかりしていましたが、ロビーで挨拶し皆様の仲間にして頂き、安心しました。

日程表通り、九州へと進み、福岡空港到着。長崎バスに乗り太宰府天満宮、フェリー、国見、雲仙で宿泊、夜は盛大な宴会となり、二次会は、「高校三年生」を全員で合唱し、若い時の光り輝いた夢の日々を思い出しました。

翌日はバスで島原半島を周りながら長崎へ到着。大浦天主堂、グラバー園と見学する。曇っていたので「ある晴れた日」にはならなかったようです。

二日目の宿泊地はハウステンボス。オランダ風に作られた行楽地で映画のセットのようです。ホテルに着くと台風のため長崎空港閉鎖と知りました。夕食の和風レストラン、花火、ホテルで久々にヴィオリンの名曲を聞きながらワインを飲む。英語でリクエストする光景もあり、ヨーロッパ風の優雅なひとときを過ごしました。

翌朝は添乗員さんの指示により福岡空港から帰ることとなりました。有田・唐津・博多と辿り着き、台風に追われながら無事羽田空港へ帰れてひと息つき、食事をしました。

40年前修学旅行の車中で、上野幸一先生が同席され、若い私達の為に、世に出たときの教訓を話された時の事が、今、蘇り、懐かしく、真の言葉として、人生の支えとなっていたのだと感謝しています。

皆様の親切さ、温かさに触れて東京実業高等学校を卒業して良かったと、老年になって知ることができました。



大浦天主堂前にて

17期（みのる会）最後の同期会



第17期 村松 濱代

平成17年5月23日（月）私達17期同期会（みのる会）を大森駅構内にある、東急インで正午より開催しました。

この同期会は昭和30年頃、空襲で焼け野ケ原になった蒲田の地に、人々が戻り住むようになってから、何人かの同期の友人が集まり、同期の卒業生の消息をお互いに持ち寄り、同期会の結成を諮って、やっと発足した会でした。それ以来今年まで、毎年5月には必ず同期会を開催して旧交を温め、お互いの親睦を深めてまいりました。

発足して多い時は50名、少ない時でも35名の出席者があり、盛会をきわめておりましたが、皆さんが定年を過ぎた頃から出席者が次第に減ってきました。振り返りますと、同期会を発足して50年の歳月が何時の間にか経ち、今年の出席者は僅か9名になってしまいました。

欠席者の多くは年齢（80歳以上）の為に、病気を患って療養中や静養中であつたり、奥様の具合が悪かったり、その他所用が重なり出席出来ないご返事が大多数でした。

《17期・同期生の現在の現況は次の通りです。》

- ・卒業時：153名
- ・住所不明、戦死者、物故者：103名
- ・住所の判明者：50名

近年は年齢のせいか出席者が少なくなったのと、私自身が何時あの世に行くか計り知れない歳であるから、今後は皆さんに日程の連絡はしないので、同窓会の年次総会の当日に集合し、同期の者で「みのる会」を続けて行くことにしよう皆さんと話し合いました。

「みのる会」には理事長、校長、三科先生（当時の配属将校）は必ずご出席して下さい、私達と共に歓談し、うちの卒業生として健康を祝福して下さいました。

昭和37年12月17日、上野熊蔵校長がご逝去され、昭和38年1月12日上野幸一先生が校長に就任された頃、校長、鷹野先生、三科先生に同期会のご案内を差し上げましたところ、ご多忙の中を喜んでご出席下さいました。

昭和63年11月23日上野幸一校長がご逝去され、同年11月24日井上稔先生が校長に就任されてからも、井上校長、三科先生は同期会にご出席下され、平成4年3月井上校長が退任され、同年4月に上野毅先生が第8代校長に就任されてから、上野雅子理事長と共にご出席下され、また

三科先生はお元気で、私共と同年輩のような容姿でご出席下さっております。

私達17期は、東京実業学校が神田から蒲田に移転して来て、2回目の入学生で、卒業時は153名おりました。

入学当時のクラスの名称は当時に相応しく忠、立、修の呼称の3クラスでした。

私達の運命は時代の変遷の節々に遭遇したのか、昭和7年満州事変の時に小学校に入学し、支那事変勃発の昭和12年に東京実業学校に入学し、大東亜戦争勃発の昭和16年12月に、戦時動員で人的資源不足の為か、翌年の3月卒業のところを12月に繰上げ卒業になり、身体に故障のない者は総て兵役に服した者ばかりでした。



第17期同期会出席者一同（2005.5.23）

—企画・デザイン・印刷全般—

トータルプラン株式会社

E-mail:total@wing.ocn.ne.jp

〒144-0032 東京都大田区北花谷1-18-14
TEL(03)5736-3447 FAX(03)5736-3448

第38期 川邊 國造

連続11回の開催で
会員の絆、
一段と強まる



第23期 塩野 理二

第23期の同期会は、平成6年に再開して以来、今年
の開催で、11回を数える（平成7年のみ休会）。10回目
の節目には、一泊旅行を実施するなど、回を重ねるごとに、
会員の絆は、一段と強くなりつつある。

そんな中、17年度は6月19日、川崎駅ビル・カメラア
ホールにて、15名の参加者のもと開催された。

出席者の近況報告に始まり、欠席した会員の消息を追
跡し、小島浩さんから、東実の学校近況報告を聞くなど、
有意義な3時間を過ごした。



第23期同期会参加者一同（2005.6.19）

… ゆったり …
都南ユウキ
パーキング

〒144-0044
東京都大田区本羽田3-23-46
TEL・FAX 03 (3745) 0891

第32期 石井 澄枝

—4人の留学生達です—

ホームステイを
経験して



第41期 滝口 房枝

今回もホームステイを引き受けることになった。胸を
わくわくしながら母校に迎えに行く。

先生に「〇〇さん」ですと紹介され「初めまして滝口
です」の会話から始まるが、電車の中では英語の会話も
できず黙っている。ただいえることは蒲田駅から乗って
二つ目の鶴見駅で降りるということ。そしてタクシーに
乗って我が家に到着。私の拙い英語の単語を並べながら
の会話ではあるが、家族のこと・好きな食べ物などをい
ろいろ聞きあう。自分たちが住んでいる国・町に誇りを
持って生活している様子が手に取るように分かる。

また、大好きな犬・猫・家族の話などファミリーのアル
バムを見ながら、一ページページ写真の説明をして
くれる姿が何ともいえず微笑ましい。

留学生と生活を共にしてひとつ感じたことは、どの子
供達もシャワーを浴びても水を十分（コロラド州は水の
料金が高いため）に使わないことだった。

トマトケチャップの大好きだった「ワイアット」君。

おしゃれな「ジョーダン」君。物静かに行動した「ベ
ンジャミン」君。二年前にあずかった「シャーラ」さん
の妹「アンドレア」さん。東京実業高校で学んだ経験を
生かして生活していらっしゃることに存じます。私たち
家族にも国際色豊富な有意義な生活を一時過ごさせてく
れたことはどんなに楽しかったことか・どんなに幸せだ
ったことかわかりません。

同窓会の皆様、日米親善の架け橋としてのボランティ
アで学校行事のホームステイにご協力をお願い致します。



「ベンジャミン」君



「ワイアット」君



「ジョーダン」君



「アンドレア」さん



46期G3A クラス会



第46期 飯塚 方子

立ち去りがたい夏を引き留めるかのように暑い10月1日、昭和46年卒G3Aのクラス会を行なった。19名の出席といつもより若干少ない人数ではあったが、熱気と姦しさはいつも以上であった。担任だった吉田先生には、ご存命中は必ず出席していただき、本当の父親以上に慕い、相談事、悩み事等々、何でも言える大きな存在だったのに今、その席が空席なのは何とも淋しい限りだ。

ようやく子供達も巣立ち始め、早くも孫の話が出たりするが、いつ会っても皆あの高校時代と変わらずに元気いっぱいなのが嬉しい。中には、大病を患った人もいるが、ミジンも感じさせずに検診の大切さを話す姿には納得し、やはり人間健康でなくては…と痛感。散会は午後11時。

人に作ってもらう料理はどれも美味しく、おしゃべりする時間の何と流れの早いこと！「当時の先生、まだいらっしゃる？」と聞かれ、「そうねえ、まだたくさん」と答えたものの、改めて数えてみればわずか3名に過ぎず、年月の流れをしみじみ感じた一夜であった。

「次回は還暦記念に」などと恐ろしい発言も飛び出したが、いやいや、それまで我慢できずに2年後位に、また集まることになるだろう。もう、それぞれの子供達が本校に入学するという事もないかも知れないが、孫達が入学するかも知れないと長期計画で、同窓会報や学校通信を配り、宣伝これ務めた私であった。

今回は、写真を撮ることができなかったので掲載できないが、在学中とちっとも変わっていないと付け加えておこう。そして、この会から2ヶ月後、有志で母校を訪問していくらかは残っている姿に思いを新たに、当時とは様変わりした蒲田駅前を歩き、ちょっぴり甘酸っぱい感傷にひたりながら、夜の更けるのが憎いひとときを過ごした。短い3年間だったが、友情を育むには濃密な月日だった。さあ、次回はいつにしようか？

●ご注意を！●

「名簿の作成中ですので寄付を…」のサギの電話が横行しています。同窓会では寄付要請は行っていません。

ご注意ください。対処法として後日連絡を取ることにして、名前、住所、電話番号、卒業年度、担任の先生の名前を聞いて事務局にご連絡ください。



簿記部OB会



第38期 安藤 加代子

平成17年2月5日、横浜日産ビルに於いて出席者16名で親睦会を行いました。毎回昔話に花を咲かせ、男子は〇〇君、女子は旧姓で〇〇ちゃんと現在の年齢を忘れ楽しい一日を過ごしました。この会は昭和36年～39年度の簿記部に在籍していた人達のOB会です（何人かは他部の方もいますが…）。総勢30名程で成り立っています。15年程前より毎年1回、顧問であった遠藤先生を交えて親睦会を開いています。昭和35年に初代部長であった足立喜一さんが簿記部を創ろうと学校に交渉のうえ、設立したと伺っています。

この頃の簿記部には1年生だけでも30名位が入部し、2教室を使用するほどの部員で、とても活発な部活でした。

文化部でありながら休日には、ハイキングに出掛け、川遊びしたり、ソフトボール等のスポーツをしたりと今でも楽しい思い出の一つです。当時レスリング部が活躍していましたが、現在、野球部やプラスバンド部の活躍を耳にすると、とても嬉しく誇りに思います。

現在は60歳以上の方々ばかりですが、まだまだ現役で仕事を続けられている方が多く、仕事も多種多様で商業科卒とは思えません。また、リタイヤした方は海外旅行をしたり、絵を描いたり、現役中には得られなかった楽しい時間を過ごしています。

会の最後は毎回「高校三年生」を歌い、また来年も元気で再会することを楽しみに終了しました。



簿記部OB会—横浜日産ビルにて—

忘れ得ぬ人たち

—平林末次さんのことなど—



第17期 佐藤 三男

平林さんとは、14期野球部OBで私の先輩の方です。

母校が蒲田に移転したのが、昭和11年。私の入学は、翌年の12年。創部間もない野球部に入り、13年からレギュラーとして出場した。御園中はまだ無く、その敷地がホームグラウンドだった。平林さんは、創部の基礎を固め、根幹だった方です。時代は中学野球、六大学野球全盛のよき時代で、私は初めて組織だった野球を平林さんから教わりました。

少年の私には大人の如き方だった。頼りがいのある指導者の風格を持った方、ポジションは捕手で主将、全軍の要には最適の方だった。重厚な体格と良く透る声の持ち主でもあった。ベースランニングには必ず伴走、我々を叱咤、今でも平林さんのグラウンドを蹴るスパイクの響きが耳に残る。ユニフォーム姿も、今のプロの如く、ズボンを踝まで長く伸ばして着こなしていた。ある休日のこと、神田駅で出会った。「何処へ」と平林さん、「野球を観に」と私、「可愛いなあ〜（子供だなあ〜の意味）、俺達は浅草に踊り」を、とニヤリとした。しかし、後日新築になった後楽園球場に連れて行ってくれた。その時、今や伝説の名投手、沢村を初めて観ることが出来た。しかも、全盛時代の沢村の英姿を。また、こんなことも、練習中の我々に、二階から夜間部の学生がヤジをとばした。平林さんは單身駆け上がり、殴り込んで沈黙させた。

硬骨漢の面目躍如。平林さんと同期でバッテリーを組んだ佐々木修三さんは、佐田啓二（俳優）似の好男子で速球投手。野茂に似た変則のフォームで、私などは死球が怖くて、および腰で打席に入ったものです。戦前、佐々木—平林のバッテリーは東実最強のコンビだったと思う。

当時のコーチは明大生だった上林さん（戦後プロに入り、のち代議士—故人）の話し。「立教の豪球投手、西郷準（この人は、西郷隆盛の孫—戦死）の速球を右へ痛打した」と言っていた。ある時、私が灰色のズボンで練習していたら、上林さん曰く、「佐藤よ！実業団野球だな」と冷やかされた。同じ頃、僅かの間、上林さんの後輩、宮本利学さんのコーチも受けたが、この方は明大の遊撃手で温厚な人だった。戦死されたが、無事であれば、戦後復興

のプロ野球界で花形となる名手だった。上林さんと平林さんは、大人の交際をしていたと思う。練習が終れば、佐々木さんと三人連れ立って帰られたのを思い出す。

13年の秋で平林さんらのシーズンは終り、新しい顔ぶれでの練習中、私は不規則バンドを顔面に受け、前歯を二本折って昏倒。病院に行き自宅で休養の時、平林さんが伝え聞いて、見舞いに来られたこともあった。

平林さんは、卒業後東芝に入り、野球を続けられたらしいが、私が最上級生の頃、兵役にあった平林さんに「東京中の中等野球の投手なら打つ自信がある」と、手紙を差し上げた記憶が残っている。平林さんが戦死されたこと知ったのは戦後のこと。今、手元にある57年同窓会の名簿によると、14・15・16期の野球部員の消息は全く不明、戦災の被害や戦後の混乱もあり、すべての方が戦没されたとは断定は出来ぬものの、私達を含め、この期の方々に戦争の犠牲者の多いのは事実、痛恨の極みであります。

野球部員の卒業記念写真を私は15・16・17期の保存しておりますが、平林さんらの14期先輩のものは残っていないのが、今となっては誠に残念です。想うに、この頃の先輩は中等学校生というより、旧制高校の学生の如き印象を受けます。総じて大人の感じだった。

最後に志を得ることなく、若くして戦陣に散った先輩部員の方々に「リリーマルレーン」の歌を、その作曲者、ノルベルト・シュルツエさんの言葉「親しい友人があれば、他に何も要らない、それが一番の幸せ」を捧げたいと存じます。

23期野球部員が、 先輩佐藤コーチと再会

第23期野球部のOB4名が、現役時代にコーチを受けた佐藤三男氏（17期野球部員—法大野球部）に、東実祭に学校へお出まし頂き、約55年振りに同窓会室で歓談のひとつときを過ごした。（第23期 塩野理二）



校門前にて（左から塩野、平野、佐藤、長瀬、山本の諸氏）

生徒会報告



生徒会会長 鈴木 祐佳

昨年の5月18日に、生徒会選挙が行われ、現在の生徒会が始動しました。

最初の行事である生徒総会が、6月15日に行われました。

それは、学年ごとに体育館で開かれました。そこで、各委員会の今年度の抱負や要望案の承諾などを行いました。

生徒全員でよりよい学校生活をめざすために、とても大切な会なのです。

2学期に入ると、体育祭や文化祭など大きな行事がありました。体育祭では、例年と違い色分けが6色から5色になりました。そのため、今までの体育祭とは違った盛り上がりを見せてくれました。また、東実祭では、プロのアーティストである“HIGH and MIGHTY COLOR”さんがライブを行うなど、例年以上に盛り上がりました。

生徒会として今までと違った形で文化祭にたずさわり、とても勉強になりました。

今後の生徒会の活動としては、生徒会誌「蒲公英」の作成・発行、三送会の企画・準備、卒業式で三年生につけていただくコサージュを作る予定です。よりよい学校生活をめざし、初心の気持ちに戻り、今後の活動に取り組んでいきたいと思ひます。

生徒会一同団結し、協力して活動していきますので、同窓会のみなさま、よろしくご指導をお願い致します。

同窓会

■ホームページURL

<http://www.tojitsu-dosokai.com>

■メールアドレス

info@tojitsu-dosokai.com

写真撮影・印刷

入学案内・ポスター・卒業アルバム

東京写真工芸株式会社

TEL.03-3303-3333

東京都世田谷区船橋6-1-2

平成17年度(第81期) 卒業同窓会幹事名簿

平成18年3月卒業のクラス別同窓会幹事です。

各クラス2名(12クラス:24名)

| クラス | 担任 | 幹事 |
|-----|---------|---------------|
| M・A | 河野 年光先生 | ◎小田原健太・星 直憲 |
| M・B | 志賀 由直先生 | ○田村 政大・藤野 祐 |
| E・A | 小椋 幸江先生 | ◎片岡 史行・○中野 誠司 |
| O・A | 小島 茂先生 | ○関根麻奈美・友利 晴輝 |
| O・B | 上原 直輝先生 | 岩城 里奈・田部井織文 |
| O・C | 岩田 孝文先生 | 石橋 知子・佐藤 祥太 |
| O・D | 原田 忠彦先生 | ◎青木 直人・青山 真純 |
| O・E | 藤吉 大介先生 | ◎三島 夕佳・岡 達哉 |
| O・F | 森 吉男先生 | ○笠原絵里子・戸越 貴洋 |

注：◎代表幹事 ○副代表幹事
学年主任＝森 吉男先生

俳句
春の訪れ

硝子戸に樹の影踊る春一番

風いでて更に大きく花筏

二人り連れベンチを探す春の宵

矢切なる渡し場ありて風光る

蒲公英を握りて子らは土手ころげ

第十八期 伊藤 勝啓

正しいメガネ・ファッション性あるメガネ
・医療器具でもあるメガネ。を高度の技術
でご調製しております。

株式会社 **メガネの金正堂**

〒231-0045

横浜市中区伊勢佐木町2-68

TEL(045)261-3418 FAX(045)261-3252

<http://www3.ocn.ne.jp/~kinshodo/>

E-mail:kinshodo@poem.ocn.ne.jp

第18期 清水 一雄

事務局だより

同窓会行事に 参加を!

6月…定期総会 11月…東実祭
9月…懇親旅行 1月…新年会

同窓会行事は毎年上記の時期に開催予定となっております。同窓生の方であればどなたでも参加出来ますので、是非お知り合いの先輩・同期・後輩にもご連絡頂き、お誘い合わせてご参加下さい。

事務局に電話(070-5551-0460)でお尋ね下されば、案内状を送付致します。また、同窓会のホームページでもご案内と、お申し込みが出来ます。

意外な人と出会うかも知れません。皆様方、多数のご参加をお待ちしております。

常任幹事を募集しています!

皆さんの中で、同窓会のお手伝いをして下さる方が居ましたら、是非、ご協力ください。常任幹事の仕事は、2ヶ月に1回位平日の夜に集まり、同窓会行事等の打合せを行ったり、また諸行事へ積極的に参加する事等です。

同窓会の輪を広げる為にも皆様の力を、お貸し下さい。

連絡先は、同窓会事務局へ、電話、FAX、ハガキ等でご一報下さい。よろしくお願ひします。

《連絡先：学校》

Tel 03-3732-4481 Fax 03-3732-4456

訃報

| 卒期 | 氏名 | 没年 |
|-----|------------|---------|
| 11期 | 広井正吉 | |
| 16期 | 青木茂夫 | 平成17年8月 |
| 17期 | 持田健司 | |
| 17期 | 野村勝一 | 平成17年8月 |
| 17期 | 柴田明 | 平成17年 |
| 20期 | 柳沼新二 | 平成7年 |
| 20期 | 高橋倉造 | 平成3年11月 |
| 41期 | 片山(旧三橋)せい子 | 平成17年3月 |

平成18年度 定期総会のお知らせ

日時 平成18年6月10日(土)
PM3:00~5:00
場所 プラザ・アペア(蒲田駅西口)
会費 懇親会費 3,000円
是非ご出席ください。

編集後記

読んで、見て楽しい会報を目指し会報部一同が、方針を種々考えてスタートしたのは夏でした。

平成17年は酷暑、水不足、所によっては豪雨に悩まされました。折しも、「愛、地球博」が開かれ、自然環境の保護と地球の美しさを守るテーマで見る者に多くの共感を与えたと思います。

多彩な同窓会の活動を、会報を通じてご理解と一層のご協力をお願い致します。活動はホームページでも見られますので、さらに多くの同窓生に読まれることを期待しております。東実からの発信を、この紙面から感じ取っていただければ幸いです。

寄稿、広告にご協力頂いた皆様に感謝し、マンネリ化を避けるべく、皆様のご意見、ご感想をお寄せください。
(会報部員一同)

本会報は、卒業されてから3年迄の会員には送付しておりますが、以降は、同窓会役員・同窓会行事出席者・本会報への寄稿者等にしか送付しておりません。

在庫部数に限りがありますが、クラス会・同窓会の開催の際には、事務局にご連絡頂ければ、差し上げます。ご遠慮なく、お申し込み下さい。(事務局)

発行・編集 同窓会会報部

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 責任者 | 川邊 國造 | 協力者 | 志賀 由直 |
| 担当 | 遠藤 孝一 | | 本田位公子 |
| | 塩野 理二 | | 白田 佳彦 |
| | 佐藤まり子 | | 滝口 房枝 |
| | 佐々木 健 | 事務局 | 米倉 美鈴 |